No. 169

ティーブレイク

Tea Break

渡来人の影を訪ねて

会員　三宅　正夫

天皇68才の記者会見で，下記のような発言があった。即ち日本書記によると日本と韓国との人々の間には古くから深い交流があり，韓国から移住或は招聘された人々によって様々な文化や技術が伝えられた。天皇自身としても，桓武天皇の生母が百済の武寧王の子孫であると続日本書記に記されていることに韓国とのゆかりを感じている。武寧王は日本と関係が深く，このとき日本に五経博士が代々招聘されるようになり，また王の子聖明王は日本に仏教を伝えたことが知られている云々（朝日新聞，2001年12月23日付朝刊）。

以上の韓国ルートについては新羅が半島に統一国家を作ったのを機に，亡ぼされた高麗の王若光が大部族を率い渡来し，奈良文化の基礎を作った当時の大和政権は東国支配のため多くの渡来人を武蔵に移住させた。彼等の東京附近の影を訪ねる。

1．浅草近郊

7ー8世紀の頃，東京湾は深く入り込み，利根川，荒川等が運んだ土砂が作った中州の間に湿原が続く荒野であった。推古帝の時，檜前浜成（ヒノクマノハマナリ），竹成（タケナリ）の2人が光り輝く観音像を引上げ，主人の土師直中知（ハジメノアタイナカトモ）が彼の邸に奉安した（浅草寺の始まり）。その後，上記3名の者を神として鎮守すべきとの観音の御告げがあった（三社権現社の始まり）。明治初期に三社明神と，更に浅草神社と改名。上記檜前氏は奈良県高松塚古墳一帯の半島渡来人であり，土師氏は古墳築造に携わった半島渡来人の技術集団。浅草は当時港町でその賑わいを今に伝えるのが三社祭（「江戸いまむかし謎とき散歩」江戸を歩く会編，広済堂出版：「史跡でつづる東京の歴史」尾河直太郎著，一声社）。

白髪神社（墨田区東向島，隅田川を挟んで浅草と反対側）：滋賀県高島市の白鬚神社から神霊を勧請したものである。白鬚明神は北陸路から琵琶湖を渡った朝鮮渡来人の祖神。

2．調布市

深大寺（ジンダイジ），祇園寺（ギオンジ）及び虎狛神社（コハクジンジャ）が代表的。

深大寺（深大寺元町5，京王電鉄調布駅よりバスの便あり。）：寺の縁起によれば，多摩川辺りの狛江に住んでいた長者夫妻の娘がどこから来たとも知れぬ福満という若者と仲よくなったので，長者は娘を池の小島に閉じ込めた。悲しんだ若者が水神深沙（ジンシャ）大王に祈ったところ，現れた大亀が彼を小島に運んだ。許された2人は男の子をもうけた。この子が後の満功上人であり，中国から我国に法相宗を伝え，故郷に深沙大王にちなんで深大寺を建立。深沙大王，福満とかの名から朝鮮系開拓民が水源の守り神を祀ったことや，奈良初期の渡来民と先住民とのロマンス物語りが重なって来たと思われる。今流行の「深大寺そば」は渡来民が栽培したもの。

祇園寺（佐須町2ー18，上記バス「佐須」下車，柏野小学校南）：深大寺の南東約1キロに位置し，前記の長者を祀る。現在は天台宗。古めかしい一対の朝鮮官人の石像（高さ約1m）が門前に建っている。一昔前は荒れ寺であったが，美化された。

虎狛神社（佐須町1ー14，祇園寺の西方約500m，バス通三鷹通に直交する大通り沿い）：武蔵の国狛江卿の中で最も早く拓かれたこの地に居住した高麗人の守護神を祀ったもの。上記祇園寺はこの神社の別当寺。

3．高麗（コマ，埼玉県日高市，西武電鉄池袋線・高麗駅）

高麗王若光が駿河以東7ケ国の高麗人を率い集団移住したところ。高麗神社は若光王を祀る。駐車場に建つ「大将軍」と刻んだ将軍標はこの地が朝鮮と関係が深いことを物語る。